

十六アジアレポート 2026年6月号

JUROKU ASIA REPORT JUNE 2026

2026年6月1日 発行 十六銀行 ソリューション営業部 海外サポート室

目次

1. タイ:「躍進と停滞の狭間で ～タイ経済の軌跡と『中所得国の罠』への挑戦～」
バンコク駐在員事務所 松岡修
2. 為替相場情報

本書中の情報は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては全てお客様御自身でご判断くださいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行及び執筆者はその正確性を保証するものではありません。また、本書中の情報は、法律上、会計上、税務上の助言を含むものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談ください。

1. タイ:「躍進と停滞の狭間で

～タイ経済の軌跡と『中所得国の罠』への挑戦～

バンコク駐在員事務所 松岡修

2026年4月のIMF推計等によれば、タイ王国は、東南アジアにおいてインドネシア、シンガポールに次ぐ第3位の経済規模を有しています。1980年代後半から1990年代にかけての驚異的な成長を経て、現在は「東洋のデトロイト」と呼ばれる自動車産業の集積地として、また世界屈指の観光立国として確固たる地位を築きました。しかし近年は、「中所得国の罠」からの脱却や少子高齢社会への対応といった経済面・社会面における構造的課題を抱えるなか、その解決の前提となる政治的安定の確保にも直面しています。

■ 歴史的背景と経済構造の変遷

タイ経済の近代化は、1980年代の輸出主導型工業化に端を発します。日本をはじめとする海外からの直接投資（FDI）を積極的に受け入れ、農業国から工業国へと大きな転換を遂げました。1997年のアジア通貨危機では、パーツの暴落により甚大な打撃を受けましたが、その後の構造改革と輸出・観光の強化により、力強い回復を果たしました。

現在のタイ経済を支える柱は、主に「製造業」「観光業」「農業」の三つです。製造業は、特に自動車産業と電子部品産業が強い競争力を持っています。トヨタ、ホンダ、いすゞといった日本メーカーの生産拠点が集中し、ピックアップトラックの生産では世界有数の規模を誇ります。観光業は、GDPの約15～20%を占める重要産業であり、コロナ前は年間約4,000万人の外国人観光客を受け入れていました。農業も依然として重要な産業であり、タイは現在でも米、ゴム、タピオカ、砂糖などの世界的な輸出国です。



タイ経済の中心地、バンコク

■ 現在の経済状況と東部経済回廊（EEC）



勢いを増す中国メーカーのBYD

2020年代に入り、タイ政府は「タイランド4.0」という国家戦略（ビジョン）を掲げ、高付加価値経済への移行を目指しています。その中核となるのが「東部経済回廊（EEC）」開発計画です。EECは、チョンブリ、ラヨン、チャチュンサオの三県を対象とする大規模なインフラ整備プロジェクトです。高速鉄道の建設、港湾の拡張、空港の近代化を進めるとともに、電気自動車（EV）、バイオテクノロジー、ロボット工学、航空・宇宙といった次世代産業を誘致することで、従来の労働集約型モデルからの脱却をはかっています。

特にEV市場においては、中国メーカー（BYDや長城汽車など）の進出が目覚ましく、タイは「ASEAN

のEVハブ」としての地位確立を目指しています。こうした動きは、長年タイの自動車産業を支えてきた日系メーカーにも、大きな戦略的転換を迫っています。

■ 直面する構造的課題

華々しい成長戦略の陰で、タイ経済はいくつかの深刻な課題を抱えています。

第一に、「中所得国の罫」からの脱却です。タイは一人当たり国民所得が上昇したものの、付加価値の低い組み立て工程が中心で、自国独自の技術革新（イノベーション）が十分ではありません。ベトナムやインドネシアといった近隣諸国が安価な労働力を武器に追い上げるなか、タイは「コストの高さ」と「技術力不足」の板挟みの状況に置かれています。

第二に、少子高齢社会への対応です。タイの高齢化は、新興国の中では異例の速さで進んでいます。「豊かになる前に老いる」と言われるこの現象は、労働力不足を招くとともに社会保障コストの増大にもつながります。これは経済成長率を中長期的に押し下げる要因です。

第三に、政治的安定の確保です。首都バンコクと地方の経済格差は依然として大きく、政治的な対立を深める一因となってきました。軍事クーデターやデモによる政情不安は、外国投資家にとってリスク要因と認識されています。

■ 未来への展望と課題解決の鍵

今後のタイ経済が持続的な成長を維持できるかどうかは、以下の三点にかかっています【図表】。

① デジタルトランスフォーメーション (DX) と高度人材の育成：デジタル経済への移行を加速させ、高度なスキルを持つ人材をいかに育成できるか。 **【図表】タイランド4.0** タイ政府資料より筆者作成

段階	主要産業	特徴
1.0	農業	農業社会、家内工業
2.0	軽工業	安価な労働力の活用、衣服・加工食品など
3.0	重工業・複雑な工業	自動車、電機、石油化学
4.0	価値に基づく経済	イノベーション、スマート産業、デジタル技術

② サプライチェーンの再構築：米中対立などの地政学リスクのなか、ASEAN の中心という地理的優位性を生かし、いかに安定した投資先として存在感を示せるか。

③ 社会基盤の整備：地方の底上げを行い、内需を拡大させることで、外部環境の変化に強い経済体質を構築できるか。

タイは、かつての高成長の勢いを取り戻し、再び地域経済の牽引役となれるかどうかの岐路に立っています。伝統的な製造業の強みを維持しつつ、BCG 経済モデル※（バイオ、循環型、グリーン）やハイテク産業へと舵を切る現在、タイの変革はASEAN 全体の経済地図を左右する重要な鍵となるでしょう。

※ BCG 経済モデル：タイ政府が推進する国家発展モデルで、Bio Economy（バイオ経済）、Circular Economy（循環型経済）、Green Economy（グリーン経済）を一体的に進め、持続可能な成長を目指す経済的な枠組み。

2. 為替相場情報

(1) 人民元一円為替相場(中国人民銀行公表仲値)

(単位:1人民元当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
4月27日	23.28180	4月28日	23.28072	4月29日	23.28614	4月30日	23.35794	5月1日	-
5月4日	-	5月5日	-	5月6日	23.07444	5月7日	22.90374	5月8日	22.95737
5月11日	22.97108	5月12日	23.02291	5月13日	23.08030	5月14日	23.11604	5月15日	23.18787
5月18日	23.23960	5月19日	23.26718	5月20日	23.27693	5月21日	23.27909	5月22日	23.29211

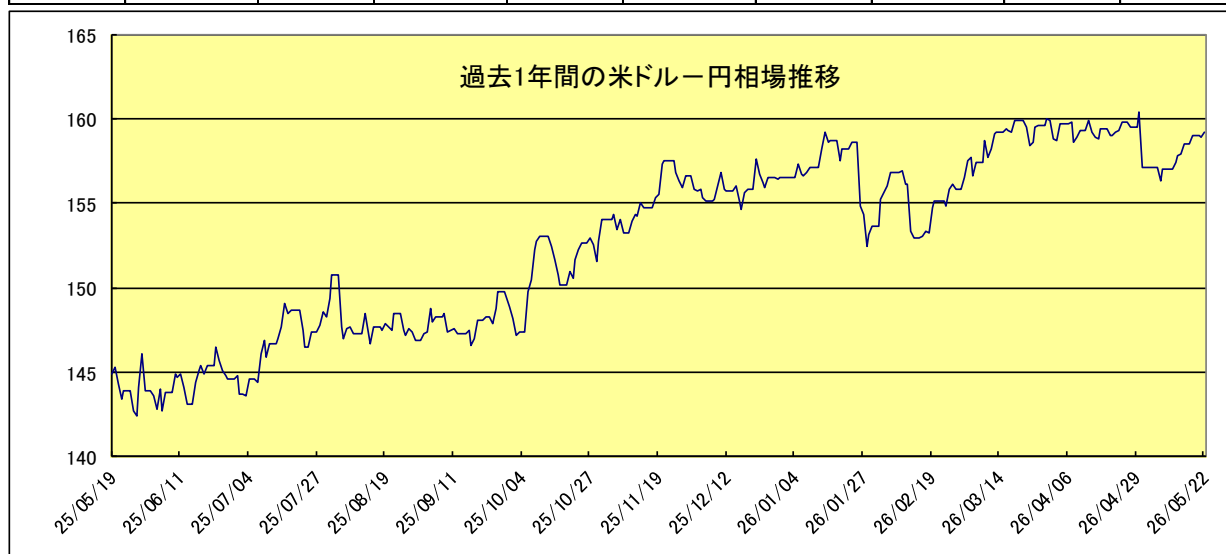


上記表、及びグラフはこの公表仲値を便宜的に1人民元当たりの日本円へ換算し直した相場です。
そのため、正式な人民元相場が必要な場合は、中国人民銀行にお問い合わせ下さい。

(2) ドルー円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

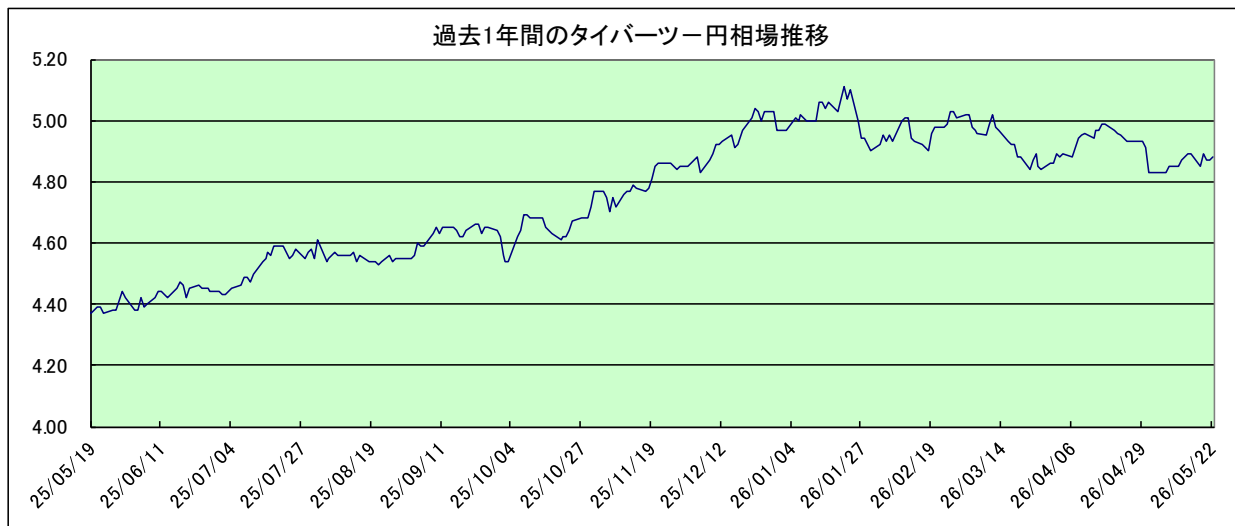
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
4月27日	159.56	4月28日	159.54	4月29日	-	4月30日	160.39	5月1日	157.14
5月4日	-	5月5日	-	5月6日	-	5月7日	156.38	5月8日	157.05
5月11日	157.01	5月12日	157.42	5月13日	157.80	5月14日	157.89	5月15日	158.56
5月18日	158.99	5月19日	159.04	5月20日	159.04	5月21日	158.96	5月22日	159.19



(3) タイバーツ-円為替相場(当行公表仲値)

(単位: 1バーツ当たりの日本円)

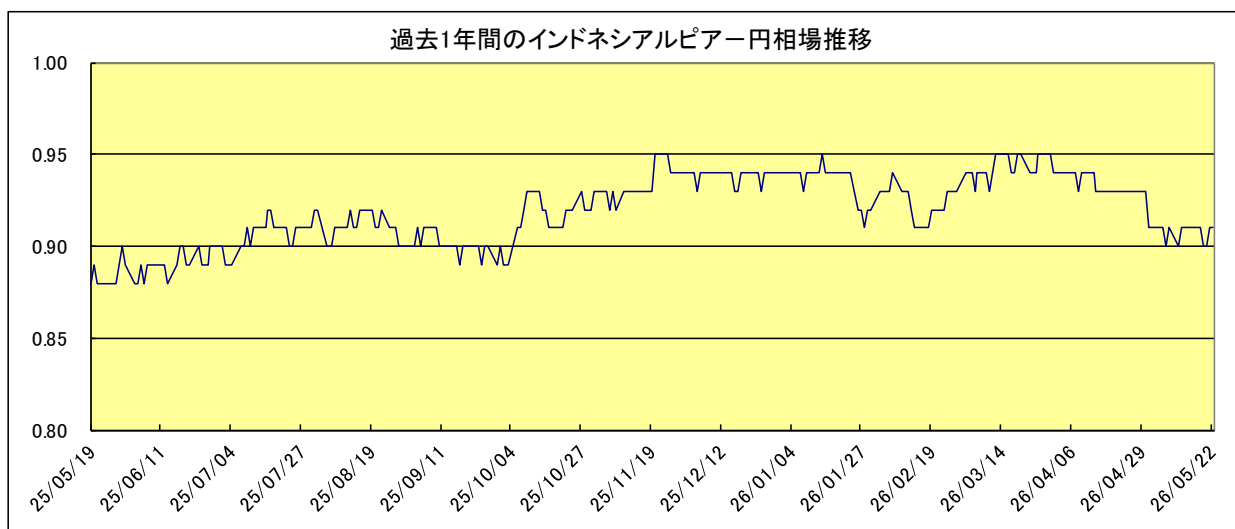
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
4月27日	4.9300	4月28日	4.9300	4月29日	-	4月30日	4.9100	5月1日	4.8300
5月4日	-	5月5日	-	5月6日	-	5月7日	4.8300	5月8日	4.8500
5月11日	4.8500	5月12日	4.8700	5月13日	4.8800	5月14日	4.8900	5月15日	4.8900
5月18日	4.8500	5月19日	4.8900	5月20日	4.8700	5月21日	4.8700	5月22日	4.8800



(4) インドネシアルピア-円為替相場(参考値)

(単位: 100ルピア当たりの日本円)

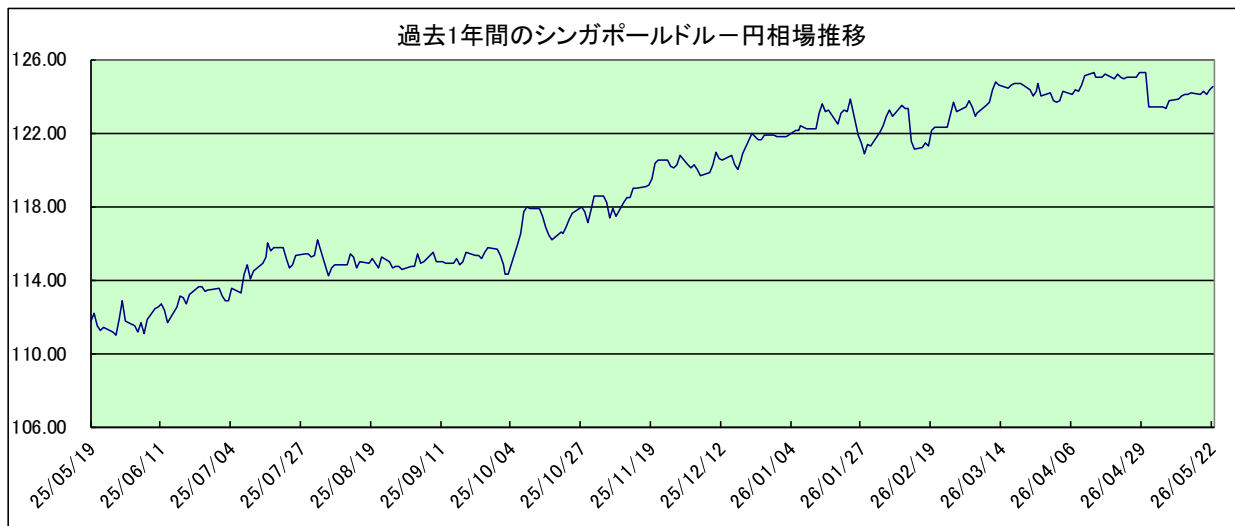
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
4月27日	0.9300	4月28日	0.9300	4月29日	-	4月30日	0.9300	5月1日	0.9100
5月4日	-	5月5日	-	5月6日	-	5月7日	0.9000	5月8日	0.9100
5月11日	0.9000	5月12日	0.9100	5月13日	0.9100	5月14日	0.9100	5月15日	0.9100
5月18日	0.9100	5月19日	0.9000	5月20日	0.9000	5月21日	0.9100	5月22日	0.9100



(5) シンガポールドル-円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
4月27日	125.0100	4月28日	125.2400	4月29日	-	4月30日	125.2800	5月1日	123.3900
5月4日	-	5月5日	-	5月6日	-	5月7日	123.2900	5月8日	123.7300
5月11日	123.8500	5月12日	123.9700	5月13日	124.0600	5月14日	124.0900	5月15日	124.1300
5月18日	124.0500	5月19日	124.2700	5月20日	124.0800	5月21日	124.3800	5月22日	124.5300



(6) ベトナムドン-円為替相場(参考値)

(単位:1000ドン当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
4月27日	6.0500	4月28日	6.0400	4月29日	-	4月30日	6.0800	5月1日	5.9600
5月4日	-	5月5日	-	5月6日	-	5月7日	5.9300	5月8日	5.9600
5月11日	5.9600	5月12日	5.9700	5月13日	5.9900	5月14日	5.9900	5月15日	6.0100
5月18日	6.0300	5月19日	6.0300	5月20日	6.0300	5月21日	6.0200	5月22日	6.0300

